

令和 7 年度第 1 回岩手県企業局経営評価委員会 議事録

令和 7 年 7 月 23 日（水） 15 時 00 分 から 16 時 15 分 まで
エスポワールいわて 3 階 特別ホール

次 第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 議 題
 - (1) 令和 6 年度の決算概要について
 - (2) 令和 6 年度の経営評価(実績)について
 - (3) その他
- 4 閉 会

所 属		氏 名
委員長	一関工業高等専門学校	あかし 明石 尚之 なのおゆき
委 員	いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社	あべ 阿部 瑛子 えいこ
〃	早稲田大学水循環システム研究所 株式会社群馬東部水道サービス	なみかわ 濤川 進 すすむ
〃	国立大学法人岩手大学	わたなべ 渡部 あさみ
〃	盛岡ガス株式会社	わたなべ 渡邊 のりお 憲郎
企業局	局長	おじま 小島 純 じゅん
〃	次長兼経営総務室長	あさぬま 浅沼 玉樹 たまき
〃	技師長	たかはし 高橋 ひろし 浩
〃 (経営総務室)	管理課長	こん 金 亜希子 あきこ
〃	主幹兼予算経理担当課長	ささき 佐々木 のぞみ
〃 (業務課)	総括課長	しらい 白井 孝明 たかあき
〃	事業担当課長	すずき 鈴木 修 おさむ
〃	電気課長	えんどう 遠藤 しるゆき 城幸
〃	技術主幹兼土木・施設担当課長	こにし 小西 たつや 達哉
〃 (施設総合管理所)	施設総合管理所長	むろつき 室月 あつし 敦
〃 (県南施設管理所)	県南施設管理所長	いとう 伊藤 くにひこ 邦彦
事務局	経営総務室 経営企画課長	せんとく 千徳 大輔 だいすけ
〃	経営総務室 経営企画担当 主任主査	きくち 菊池 智也 ともや
〃	経営総務室 経営企画担当 主査	かわぐち 川口 たくみ 拓実
〃	経営総務室 経営企画担当 主任	たかむら 高村 たくみ 匠

(委員 50 音順 敬称略)

(発言者)

(発言内容)

【 1 開 会 】

千徳

経営企画課長

定刻となりましたので、ただいまから、令和7年度第1回岩手県企業局経営評価委員会を開催いたします。今回、定期人事異動後、初めての経営評価委員会となりますので、企業局の職員を紹介いたします。

まず、企業局長の小島純でございます。

次に、次長兼経営総務室長の浅沼玉樹でございます。

次に、技師長の高橋浩でございます。

次に、管理課長の金亜希子でございます。

次に、主幹兼予算経理担当課長の佐々木のぞみでございます。

次に、業務課総括課長の白井孝明でございます。

次に、事業担当課長の鈴木修でございます。

次に、電気課長の遠藤城幸でございます。

次に、技術主幹兼土木・施設担当課長の小西達哉でございます。

次に、施設総合管理所長の室月淳でございます。

次に、県南施設管理所長の伊藤邦彦でございます。

最後になりますが、私、経営企画課長の千徳大輔でございます。以上、12名が出席しております。よろしくお願いいたします。

この「岩手県企業局経営評価委員会」は、基本的に公開として開催することとしており、ホームページ等でも掲載しているところです。

それでは、お手元の次第により、進行して参りたいと存じます。開会に当たりまして、企業局長の小島よりごあいさつ申し上げます。

【 2 挨 拶 】

小島局長

皆様、本日は大変お忙しい中、また、お暑い中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

改めまして、4月から企業局長を拝命している小島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

当局各事業につきまして、昨年度は、第2期中期経営計画の初年度として、電力と工業用水の安定供給・安定経営に努めるとともに、再生可能エネルギーの維持拡大や新たな水需要への対応に取り組んで参りました。

現在、電気事業では、令和2年度から再開発に取り組んでいる入畑発電所において、今年度内の運転開始に向け、現地工事の仕上げを進めております。同じく、再開発中の胆沢第二発電所については、来年度の運転開始に向けて、現地工事を進めているところです。

工業用水道事業では、新たな水需要に対応できるように、新北上浄水場の第二期工事を、来年度の完成に向けて着実に進めております。

本年度1回目となる本日の経営評価委員会では、「令和6年度の経営評価」についてご説明させていただきます。

本日頂いたご意見を踏まえながら、今後の取組に生かして参りたいと考えているところでございます。委員の皆様におかれましては、様々な視点から忌憚のないご意見を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

千徳 それでは議事に入りたいと思います。
経営企画課長 以降の議事進行は、明石委員長にお願いしたいと思います。

【 3 議 題 】

(1) 令和6年度の決算概要について

明石委員長 委員長の明石です。それでは、「令和6年度の決算概要」について、事務局から説明をお願いします。

令和6年度の決算概要について

佐々木主幹兼予算経理担当課長が下記資料に基づき説明を行った。

参考資料1 令和6年度決算概要

明石委員長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等はございませんか。

濤川委員 参考資料1の1ページ目、経常収支比率ですが、経営目標が102%と設定されています。令和5年度の実績で127.8%ぐらいございまして、102%の目標自体が若干低かったのではないかと思います。どのような理由で102%にされたのか、お答えいただきたいと思います。

佐々木 こちら経営目標の経常収支比率につきましては、第二期中期経営計画におきまして、令和6から8年度までの、それぞれの目標をあらかじめ数値として設定してございましたので、こちらにつきましては中期経営計画に基づく数値となっております。

白井 中期経営計画3ヵ年で各年度の収益、費用の状況を勘案し、経常収支比率について設定させていただいているところです。

業務課総括課長 その中で、令和6年度については、オーバーホールや除却、それに伴う修繕費や除却費とかそういった費用が発生したところもございましたので、令和5年度に比べますと費用のところ見ていただければお分かりかと思いますが、経常費用は11億ほど多くなっているという状況です。それが影響して、トータルとしては、令和5年度の経常収支比率よりも下がったということになりますが、経営目標としては102%を設定させていただいておりますので、目標を達成したということになっております。

渡邊委員 参考資料1 電気事業の「2 経常収支の状況」についてなんですけれども、供給電力量は18%減量になりながらも、新たに国の容量市場の収入が増えたということですが、国の容量市場の収入というのをちょっと説明していただきたいのと、この辺は織り込み済みだったのかなというところをご説明お願いしたいと思います。

渡部委員

実は私もこの辺がわからなくて、このとき供給電力量が減となっているにもかかわらず、降雨量が増えたことによって、電力料収入が増となっているんですけども、単価はどのような設定になっているのか、あわせてぜひ教えてください。

白井
業務課総括課
長

先に容量市場についてご説明いたしますが、電力システム改革に伴って、電気の価値というものが細分化されてございます。

電気そのものの価値、いわゆるそれが電気料金の部分ということもございますし、また非化石価値ということで、そういった価値も別途あったりしております。その中の1つとして、容量市場による将来の供給力に対する、担保量といいますかそういったものの価値ということで、新たに、令和6年度からの収入ということで設定された制度ということになっております。

収入に関しまして、先ほど委員からお話があった単価については、細かい数値の回答を差し控えさせていただくのですが、お見込みの通り、電力供給量が減ったにもかかわらず収入が増えている一つの要因としましては、そういった要素もあるというところでございますし、また容量市場に係る収入というものも新たに入ってきているというところもありましたので、合わせた収入といたしまして、令和5年度よりは上回る実績になったというところでございます。

容量市場自体は、先ほど申し上げましたように将来の供給力のいわゆる担保といいますか、お約束するその供給力の価値ということになるのですが、それ自体は通常の運用をする中で、発電しなかったときには、ある一定の期間、例えば180日分を超えるような停止が発生した場合には、ペナルティとしてお支払いするという形になっております。容量市場の価格の決定の仕方としましては、オークション形式で、実際に発電事業者が、容量市場に係る価格の入札をして、それが需要との絡みの中で折り合ったところで、落札するといいますか、価格が決定する形になっております。それがオークションの結果によるものですから、年度によって価格が変動するといったものになっております。本来であれば従来の電気料金制度でいけばそういった将来の供給力というものについても、価格の中に含まれていたわけなんですけれども、それを細分化して見える化して、それぞれを市場化したという形になっておるものでございまして、そういった意味で、別立てで収入が入ってくるという形になっております。

渡邊委員

なかなか複雑なシステムということが分かりました。国からの交付金ということになるのでしょうか。

白井
業務課総括課
長

電力広域的運営推進機関との契約であり、そちらの機関から入ってくるような形になっているというものです。

明石委員長 そのほか質問等はありませんか。
 なければ、次の議題に移ります。続きまして、(2)「令和6年度の経営実績評価(実績)について」、事務局から説明をお願いいたします。

【 3 議 題 】

(2) 令和6年度の経営評価(実績)について

経営企画担当高村主任が下記資料に基づき説明を行った。

資料1 令和6年度経営評価(実績)の総括

資料2 令和6年度経営評価総括表(実績)

参考資料2 令和6年度取組内容一覧表

明石委員長 ただ今の説明につきまして、ご質問、ご意見等はありませんか。

阿部委員 資料1、1ページの一番下の、主な課題と今後の対応の部分の、近年、保守部品の納期が長期化しているということで、発電所の供給停止の部分に関連してですが、例えば今回いただいた資料ですと、参考資料3に供給停止の原因とその対応一覧ということで、実績をいただいております。滝発電所が2ヶ月ちょっとぐらい停止しているような形になっていますが、例えば、アマリングリーンでんきなどですと、滝発電所の電力をアンバーホールとかそういったところに供給している形になっていると思います。この停止している期間というのは、実際、電力供給自体はバランスをとると思うので、電力供給が止まるわけではないと思うんですけども、実際どういう取り扱いになっているのかということと、あと、先ほど容量市場ではやはり180日停止があるとそのペナルティがあったりということでお話もあったんですけども、個別の契約によるところなのかもしれないですが、そういった違約金や保証のようなものは何かしらあったりするのでしょうか。

遠藤
電気課長 滝発電所ですけれども、2ヶ月ほど止まったために、アマリングリーンでんきさんには電力を供給できていないといったことがまず1つ挙げられます。これは発電してないので、どうしても供給ができませんでした。それから容量市場の関係のペナルティですけれども、こちら180日以上止まるとペナルティというのが課せられて、マイナスのペナルティが、その損金みたいなものが課せられます。今回ですと1つの発電所で180日以上止まったところがありましたので、そちらではマイナス計上といった、損金みたいなものが発生はしております。

阿部委員 そうしますと、今回の滝発電所については、アマリングリーンでんきの契約に関してそういったペナルティのようなものは無かったというようなことでしょうか。

遠藤 滝発電所に関しては、そのようなペナルティは無かったです。

電気課長

濤川委員

資料1の2ページ目の指標一覧のところの経常収支比率なんですが、実績で64%と、工業用水の全国平均が101%ぐらいなので、やはり低いとお見受けするのですが、中期経営計画等でこれが100%を超えるのはどのぐらいをターゲットにされているのかお答えいただきたいと思います。

鈴木
事業担当課長

経常収支比率でございますが、今の第二期中期経営計画におきましては、令和8年度までのものを目標値として掲げてございます。こちらの経常収支比率は、収益で費用をどれだけ賄われているのかということでございまして、単年度収支が黒字であれば100%以上というような指標です。現状の工業用水道事業の見通しでございますけれども、赤字につきましては令和22年度まで続いて、令和23年度から黒字化する見込みということでございますので、経常収支比率が100%というような状態になるのは令和23年度以降と今のところは見込んでおります。

濤川委員

それは長期経営方針でそうされているという理解でよろしいのでしょうか。

鈴木
事業担当課長

長期の収支見通しは、毎年、内部資料でございますけれども更新しております。その中で、収益とか費用の見通しとかそういったものをシミュレーションいたしまして、赤字がどれぐらいまで続くのかとか、そういったところを内部資料としては整理しておりますが、今の23年度からは黒字というのはその資料に基づいてのものでございますし、いまお手元に第二期中期経営計画があればございますが、31ページ目のところに、工業用水道事業の収益的収支の見通しの記述がございまして、こちらでも令和23年度以降に黒字に転換する見込みである旨、記載してございます。

濤川委員

中期経営計画というのは公開している資料ですよ。

鈴木
事業担当課長

その通りでございます。

渡部委員

資料1と、資料2にも記載されていますけれども、資料1の2ページ目、工業用水事業におきまして、2の(3)のところで、契約水量の増に向けた交渉を行いましたとあるんですけれども、こちらにつきましてはどういった感触というか、どういった展望が見いだせたのかをぜひ教えていただきたいと思います。

鈴木
事業担当課長

工業用水を供給しているユーザー企業が21社ほどございます。年に2回ユーザー訪問を行っておりまして、春先とそれから決算説明ということで年度後半に訪問しているのですが、その際にユーザーさんそれぞれの今

後の水需要の見通しといたしますか、そういったところもお話を聞いたりしながら、できれば工業用水を使用していただければというようなことを、個別に会社の状況に応じて、そういったお話をさせていただいたりというような形で、交渉といたしますかを行っているということでございます。

渡部委員 今後も継続して安定的に工業用水を使ってもらえそうな、そういった感触を得ているのでしょうか。

鈴木
事業担当課長 今のところユーザーさんから、工業用水の使用をやめたいというようなお話はいただいておりません。ただ最近、物価高騰の関係とかいろいろございまして、今年の5月に新任挨拶を兼ねまして、ユーザーさんに行ったところではありますが、物価高騰の関係で経費の削減等の取組を行っているユーザーさんもございますし、あといわゆるトランプ関税と呼ばれるものについても、今のところ影響は出ていないけれども、今後どうなっていくのか危惧していますというユーザーさんが多い状況でございました。また、工業用水の使用状況についてもお話を伺ったんですけれども、現時点では物価高騰とかの影響で使用量自体を減らすことは考えてないということでユーザーさんからはお答えをいただいているところでございます。

渡部委員 資料1と、あと働き方に関するところでも出てくるんですけれども、組織力向上に関して専門研修受講者数が483人の実績ということで、積極的に実施されていることを読み取ったんですけれども、これはどのような研修を行っているのかということについてぜひ教えてください。通常の業務をアップデートした技術であったりとかそういったことなのか、もしくは、こちらに書いてあるようなクリーンエネルギーに関することなのか教えていただければ幸いです。

金
管理課長 専門研修には大きく分けて職場研修と職場外研修がございまして、職場研修ですと新採用職員研修から、新任職員研修などというものがございます。

また、職場外研修としては、もろもろ資格を取るための研修への参加、例えば労働基準協会で実施している研修を受講したりといったもののほか、事例研究発表会というような形で年度の後半に実施しましたので、それで見込みよりも人数が増えたと思われます。

渡部委員 人に関する質問でもう少し伺いたいんですけれども、資料2の11ページ目にある内容について教えてください。人材育成・技術継承について、評価はAなので問題ないのかなという認識を持っているんですけれども、この辺りについて、例えばデジタルの活用等々を取り入れた技術継承を行っているとか、近年の技術継承のあり方、人材育成のあり方で、何か変化があればぜひ教えていただきたと思います。

また、働きやすさの向上についてなんですけれども、資料2の12ページ

ジ目のところに非常に詳しく記載されておりまして、適正な人員配置に努めていらっしゃることであったりとか、職場環境の充実に努めていらっしゃるという記載があったんですけれども、例えば、女性用トイレへの増設工事を進めていきますというようなことだったんですけれども、近年、ダイバーシティマネジメントというような名目で多様な人材の活用、活躍というようなことが言われている中で、日本の組織においてジェンダー平等というのをまず最初に、ダイバーシティの関係において、その第1の目的、第一歩としてやっていくというようなことは、いろいろな文献でも言われているんですけども、そのことが職場全体の働きやすさに繋がるかということが結構大事なのではなからうかというふうに個人的には思っております。多様な人材が活躍できるようなそんな職場環境を充実へ向けた取り組みというものがあつたらぜひ教えていただきたいというのが1点。もう1点なんですけれども、働きやすい職場づくりであるとか環境づくりということについて、職員の方々へのアンケートであったりとかその実績をどのように把握しているのかということについてぜひ教えてください。

金
管理課長

まず人材育成、技術継承といったようなところでしたけれども、すみません、デジタルの方は、実際に行われているかというのは分かりかねるのですが、いずれその特記事項のところにもございますけれども、若手の人たちですとかリクルート活動といったところで、まず入っていただいて、その後に先ほど申し上げましたように研修体系ございますけれども、職場の先輩方からも含め、技術を教えていただくというような形で、継承していくというところでございます。

2点目につきましては、トイレとか、女性の技術職も県全体として見れば増えているところでもございますので、その辺のところをフォローしながら、働きやすい環境をまず作っていききたいといったようなところがございます。

あと、職員アンケートにつきましては、こちら令和5年度に実施したもので、それをもとに、働き方改革推進会議という、幹部職員等々で構成する会議でいろいろ検討しておりまして、資料2の12ページにございますようにロードマップを作成いたしまして、無線LANアクセスポイントですとか局内研修等々を実施しているところでございます。ちなみに、企業局職員アンケートですけれども、隔年実施としてございまして、今年度、9月頃に実施する予定でございます。またそこでいただいた意見を反映させていければなというふうに考えてございます。

白井
業務課総括課
長

若干補足をさせていただきます。

先ほどデジタルを活用した人生育成のお話ございました。どちらかというとA I・I o Tの活用については、省力化とかそちらに目がいていて、そういったところに活用している、模索しているという状況がございましたけれども、具体的なその人材育成につなげている事例といたしまして、V

R研修みたいなものを行っております。安全体感研修ということで、実際に例えば電気を触ったら感電して、実際に触れるものではないんですけども、バーチャルな空間の中で触ったらどうかとか、作業している中で、例えば落下するような危険性がないかどうかとか、そういったVR的な体感という形で、取り入れたりしているケースはあるということで、そういったところも今後は取り入れていきたいなというふうに思っております。

渡部委員 VRとは眼鏡のようなものですか。

白井 そのとおりです。
業務課総括課
長

渡部委員 何台くらいですか。

白井 メーカーさんの協力により、委託という形で2年に1回程度、2回ぐらい続けてやっているような状況でございましたので、実際に体感した者の声を聞いても非常にためになったというか、体験できてよかったという話もありますので、そういったところも今後は考えていきたいと思っております。

渡邊委員 いろいろ質問が重複してしまうんですけど、まず最初に、私も質問しようとしていたところ濤川議員からお話がありましたが、今後も経営評価委員を続ける上で、この工業用水道事業の令和22年度まで赤字が続くというところはどう評価しているのかというところがあり、今後も聞きながら進めていこうかなと思っています。そして、経常収支比率ですね、この辺は見通しもこれから変わっていく中で、58%の目標に対して実績が64%ということで、それでよしとしているものかどうかとかですね、そこら辺をこれからも継続して検討していきたいなと思っております。

それからリクルート活動に関して、資料2の12ページですね、なかなか難しい状況だと思うんですけども、積極的なリクルート活動により人材確保に努めるとありますので、この積極的な活動でも成果はAなのでうまくいっているかと思うんですけど、話せる範囲で、どのような状況かなど、活動内容をお伺いできればと思っております。

もう1点、資料2の13ページ目、水素利活用推進プロジェクトの内容で、財政支援を行いましたということで、どのような財政支援を行っているのか、意図というか目標をお聞かせ頂ければと思います。

千徳 リクルート活動は、募集した定員は過不足なく今のところ採用を行っておりますが、他の業界、東北電力さんとか、電力事業の方々のお話をお伺いしても、技術職の採用というのはなかなか難しいところがあるということで、これはもうこの業界が抱える最近の課題というところにはなっ

ているかなと思います。当然、盛岡ガスさんも技術系の採用に苦労しているのではないのかなあと思っております。なかなか難しいところはあるのですが、これからですねいろいろ裾野を広げて、若者というか、学生の技術系の職に対する抵抗感の無さというか、最近工業高校もどんどん統廃合が進んでいっていますので、そういった理系に進む学生というのも増やしていかなきゃないのかなと思います。我々も今後はそういう課題を持ってですね、リクルートをやっていきたいなと思っております。

水素利活用のお話でしたが、環境生活部でやっている事業に対して、我々がお金を出してですね、そういったものには協力をしていくと、企業局が今のところ水素で何か新しい事業をというところまではまだ進んでいないのが現状でございます。

渡邊委員 採用の関係ですけれども、去年、今年でも、3月1日で試合終了なんていうのを体感してましてですね、もう遅いということで、どんどん早期化が進んでいると感じております。

渡部委員 今のお話に関係して、こちらではそういったことはないかとは思いますが、すけれども、採用計画がある中で、優先して取りたい人材がいて、その次に取りたい人材がいて、それが取れなかった場合は、中途採用する企業が結構多いという話を、企業への聞き取り調査で伺うんですけれども、こちらにおきましては、目標の人員数を毎年採用することができているのかということが1点、そして中途採用についてはどういった制度を、どういったときに行っているのかということについてぜひ教えてください。

金
管理課長 企業局の職員採用は人事委員会で一緒に募集をしておりますので、計画に対して申し込みがあって、面接をしてというような形になってございますが、まだ今年度は途中でありますけれども、なかなか厳しいという状況でございます。

中途採用の関係につきましては、特段、人事委員会に申し入れておりませんので、制度として企業局ではやっていないという状況です。

阿部委員 資料2の11ページ目の人材の確保、育成の部分に関して、初めて中学校から3名の職場体験を受け入れたということで、先ほども理系に進む学生を増やしていくというようなお話もあったりしまして、若年層のうちからそういったいろんなものに興味を持っていただくような機会を作るのは非常に素晴らしい活動と認識しております。

こちらの職場体験というのは、通常の、例えば大学生のインターンシップとかとはまた多少プログラムとか、そういったあたりを工夫しながら行っているものなのでしょうか。

金
管理課長 昨年度初めて中学校からの職場体験を受け入れたというようなことがあります。担当に聞きましたところ、いつもはインターンシップで大学生とか、高専生が来るんですけど、それと同じ内容ではやはり難しいよう

で、説明する方も苦労しながらやったということを聞いております。

阿部委員 職場体験ということはいろいろと施設、例えば浄水場であるとかいろいろ発電所であるとかそういったところに実際行っていただいてというような形でやっていらっしゃるのでしょうか。

金 はい、実際にそのような施設を見てもらってという形で行っています。
管理課長

明石委員長 その他ございますか。よろしいですか。
色々のご質問がございましたけども、先ほど説明の中で、若干文言の修正ございました。それ以外については本質的なところの、修正、或いは追記は必要ないと考えますが、よろしいでしょうか。(各委員から異議なし)
それでは、令和6年度の経営評価実績は事務局案のとおりしたいと思います。

続きまして、その他ですけれども事務局から何かございますか。(事務局から特になし)

各委員の皆様から何かございますか。(各委員から特になし)

ないようでしたら本日予定しておりました議事はすべて終了となります。スムーズな議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。それでは残りの進行は事務局にお返しいたします。

【 4 閉 会 】

千徳経営企画 本日は貴重なご意見、ご助言を賜り誠にありがとうございました。いただいたご意見等を参考にさせていただきながら、業務や課題に取り組み、中期経営計画を推進していきたいと思えます。本日の審議に関する議事録は、後日各委員に照会のうえ、ホームページに公開いたしますのでご了承ください。最後に、閉会に当たりまして、局長から一言御礼を申し上げます。
課長

小島局長 本日は令和6年度の経営評価につきまして、ご意見頂戴いたしまして誠にありがとうございました。回答が十分ご理解いただけるものだったかどうか、私個人的に不安なところがありましたけれども、まず何とかご回答させていただいたところでございます。

今日ご指摘いただきました、例えば、経常収支比率の数値の問題ですとか、こういったところは、令和9年度以降3年間の中期経営計画を策定することになりますけれども、今年度からその準備が始まって参ります。策定に向けまして、引き続き数値目標の設定の仕方、特に工業用水の数値の設定の仕方、そういったところも含めて、また今後、様々ご議論いただきながら進めて参りたいと考えているところでございます。

なお、容量市場の関係はなかなか複雑な中身で、短い時間で説明しづら

いところがあったかと思います。私なりのざっくりした受けとめ方といいますか、考え方で申しますと、発電量が一定であっても、その供給能力がその年によって評価が違ふと。単価はその年度によって、相対等で変わってきますので、仮に発電量が一定であれば単価の上下によって額も変わってきますが、供給能力は、全体の供給能力の中で企業局の供給能力がどうかというところが入札をして決まると言ったように別枠となりますから、その年によってその評価が変わってくる。高く評価されるときもあれば、低く評価されるときもあるということで、供給量とはまた別の供給能力の評価になって参ります。昨年度は供給能力が高く評価されて、発電量は減ったけれども、ぐっと収益が上がったといったようなシステムなんですけど、すごく複雑なところがありますので、のちほど詳しい資料を皆さんにお送り差し上げたいと思いますので、そちらをご覧くださいまして、不明な点については次回の評価委員会等でまた再度ご質問いただければ幸いかなというふうに考えているところでございます。

いずれ、前任の中里からも、私どもの取り組みをすごく後押ししていただく委員会だというふうに引き継ぎを受けているところでございます。今日いただきましたご意見、ご質問もそういった形でのお話というふうに私も受けとめさせていただいたところでございます。

引き続き、私どもの取り組みに様々ご意見ちょうだいできればと思ってございますのでよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

千徳
経営企画課長

それでは、これを持ちまして令和7年度第1回岩手県企業局経営評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。